

小中学校音楽編

＜シリーズ 新型コロナウイルス感染症に
対応した主体的な学びの実現に向けて＞

新型コロナウイルス感染症に対応した“表現領域”の学習指導

～器楽分野の指導、ここに気を付けて！の巻～



感染症対策で、器楽分野の指導に困難さを感じておられるのではないのでしょうか。学習指導要領では、器楽分野で使用する楽器の指定はされていません。状況に応じて、使用する楽器や教材曲の差し替えも有効です。「この力を付けるために、今できる活動は何か」という考え方を大切に、器楽分野の指導を進めていきましょう。

■指導計画の見直しについて

リコーダーにこだわらなくても大丈夫！

ポイント

○指導内容を再確認し、使用する楽器を吟味する。

新学習指導要領は、身に付けるべき資質・能力ごとに指導事項が示されています。「付けたい力は何か」を整理し、必要に応じて使用する楽器を変更することも考えられます。



旋律を演奏する楽器は、リコーダー以外にも、オルガン、キーボード、アコーディオン、木琴、鉄琴、箏、三味線などがあります。学校の実態を考慮して、選択しましょう。

今こそ教科書に着目！ ※全ての教材曲を扱う必要はありません。

○教材曲を検討する。

教科書を改めて見直してみましょう。短い曲でも教材性の高い作品、構造が分かりやすい作品が多く掲載されています。学習すべき内容を担保するための選曲を意識しましょう。

(例)「茶色の小びん」・・・和音や低音の働きを感じ取ることができます。音色や響きに気を付けて、打楽器を工夫して演奏するのもよいでしょう。
「ミッキーマウスマーチ」・・・付点のリズムに着目して、曲想と音楽の構造との関わりに気付くことができます。

地域の感染レベル	レベル3	レベル2	レベル1
留意点	<ul style="list-style-type: none"> 身体的距離はできるだけ2m程度（最低1m）確保する。 <p>対策 活動の場は、音楽室の外にも見付けられるかも！</p>	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の「接触」「密集」「近距離での活動」「向かい合っでの発声」は避け、一定の距離を保ち、同じ方向を向くようにし、回数や時間を絞るなどして実施する。 <p>対策 分散練習や、家庭学習、ICTの活用が有効です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1mを目安に学級内で最大限の間隔を取る。 <p>手を洗おう 消毒しよう 換気しよう</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 室内で児童生徒が近距離で行う合唱及びリコーダーや鍵盤ハーモニカなどの管楽器演奏は行わない。 <p>対策 管楽器はできなくても、打楽器、弦楽器、鍵盤楽器等、器楽の世界を広げるチャンス！</p>	<ul style="list-style-type: none"> 個人が持っている教材教具の、児童生徒同士の貸し借りはしない。 <p>対策 共有の楽器を使用する前後は、手洗いや手指の消毒を確実にいきましょう。</p>	
学習活動の工夫例	<ul style="list-style-type: none"> 木琴や箏、キーボードなど、管楽器以外の楽器を用いる。 管楽器については、屋外や別室、家庭で演奏し、その様子を録画したものを活用する。 ゲストティーチャーにはオンラインで授業に協力していただく。 		<ul style="list-style-type: none"> 曲想の変化を感じ取りやすく演奏時間の短い作品を教材として取り上げる。（教科書掲載の合奏曲等）
発表の工夫例	<ul style="list-style-type: none"> 演奏している様子を個別に撮影し、一つの動画として編集したものを限定的に公開する。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前に録音した児童生徒の演奏（管楽器）と、生演奏（その他の楽器）を組み合わせて発表する。 それまでの学習の様子も合わせて動画で紹介する。 	